

# 石巻専修大学

石巻専修大学 ホームページ <http://www.isenshu-u.ac.jp>

代表電話番号  
**0225 (22) 7711**  
広報専用FAX  
**0225 (22) 7809**

## 国際交流センター

### 温州大からは学生17人が来学

国際交流センターでは、今年も「温州大学サマープログラム」と米国・シアトルでの「海外語学研修」を実施した。いずれも5人の学生が参加し、研修と異文化を体験した。

国際交流協定を結んでいる中国の温州大学が実施するサマープログラムは8月10日から9日間にわたって行われた。輪田直子理工学部准教授に引率された一行は大学の寮に宿泊。期間中は基礎中国語の講義や、温州の経済モデルを学ぶ一環として企業見学が実施されたほか、書法や音楽、太極拳などの伝統文化の体験も行われた。

## 温州大サマープログラムと米国シアトル・語学研修

# 異文化交流、活発に



▲ 温州大サマープログラムに参加した学生たち



▲ 研修を受ける温州大から来学した短期研修生

学に来学した。夏期短期研修で来学した学生たちは本学で基礎日本語の講義を受けたほか、本学茶道部による茶道体験に参加。日本文化を学び、本学インターナショナル愛好会の学生との交流も深めた。

学研修は8月20日から9月7日までの19日間。参加者は現地でホームステイをしながら、シアトルパシフィック大学(ワシントン州シアトル市)で開講された英語集中プログラムを受講し、ネイティブの英語に触れる貴重な体験をした。

硬式テニス 和田さん(経営)が3年連続インカレ出場  
8月15日から26日まで、岐阜市の岐阜メモリアルセンターで開かれた第24年度全日本学生テニス選手権大会で、選出された。

(全日本学生テニス連盟主催)に、硬式テニス部の和田咲良さん(経営)が3、宮城県泉館山高が出場した。女子シングルスは3年連続、ダブルスは初の出場(仙台大学の選手との予選敗退に終わった)。

2012 石巻祭  
～歩(あゆみ)～  
10/6(土)・7(日)  
10/6はホームカミングデーを同時開催

石巻祭実行委員会ホームページ <http://www.isenshu-u.ac.jp/sekicho/>

## 「仙台学長会議」市民公開シンポジウム 佐藤さん(経営)がパネリストに

### 「東日本大震災」で意見交換

仙台市と宮城県内の大学が中心となって組織する「仙台学長会議」は9月2日、同市内のガートンシティ仙台で市民公開シンポジウムを開いた。「いま仙台で学ぶことの意義」ほんとうの生きがいとは、と題して開かれたこのシンポジウムは、大学教員と学生ら6人がパネリストを務め、それぞれが東日本大震災をどうとらえているかを話し合った。本学からは支援ボランティアサークル「ゆいまーる」代表の佐藤夏実さん(経営3・福島県福島南高)が参加

し、活動を報告した。「で、住民から感謝された佐藤さんは震災後、所屬する山崎泰史ゼミで石巻のために何ができるかを考え、仮設住宅に住む人たちの自立を促す支援活動を行っていることを紹介したうえで、「被災した人たちの話を聞いて、自分たちだけでは見えなかった問題が見えてきました。また、活動を行っている中

「2012電気自動車の電気自動車が1周年エコーラン競技大会i3・7のコースを2nSUGO(同大会実行委員会主催)が9月1、2の両日、宮城チームとも手作りの車両にさまざまな工夫を凝らして参加。出走台数41台中、「石巻専修大学」が4年次生チームが参加した。

この大会は小型バッテリーを搭載した手作りの部で優勝した。

「科学の面白さを子どもたちに 本学を会場に2イベント開催」  
日本学術振興会主催の「ひらめき☆ときめきサイエンス」が8月18、19の両日、本学で開催された。このプログラムは文部科学省の科学研究費補助金で大学が行っている最先端の研究成果を小

中高生に知ってもらい、科学の面白さを感じてもらおうというもの。本学からは阿部知顕理工学部教授が「細胞」究極のナノロボット」と題して講義を行った。講義では、発光ダイオードと光センサーを備えた小型ロボットを参加者が1人1台ずつ作り、細胞性粘膜が集まる仕組みを再現することに挑戦した。

## 石巻市沿岸市街地を再現

理工、経営両学部の10人の学生が、東日本大震災で被災した石巻市沿岸部の市街地を再現した立体模型を製作した。7月26日から8月22日まで、同市内の石巻信用金庫本店で展示された。

模型は本学が進める「復興共生プロジェクト」の一環として、益満環経営学部准教授、高橋智理工学部准教授を中心に、学生らが昨年7月から図書館で製作に取り組んできた。

大きさは縦1・8メートル、横2メートル。震災前に撮影された、市内門脇、南浜地区の空撮写真を基に、本



▲ 好評だった学習支援

## 仮設住宅の小中学生の自主学習を支援

木村特任教授と学生6人、8月21日から24日まで、南境地区など本学周辺の仮設住宅に住んでいる小中学生を対象に、大学の教室に招いて自主学習の支援を行った。

木村民特任教授と学生6人は、8月21日から24日まで、南境地区など本学周辺の仮設住宅に住んでいる小中学生を対象に、大学の教室に招いて自主学習の支援を行った。

木村特任教授が学習支援教室を開くことを提案。教室は小中学生がそれぞれの課題を持参し、分からないところを学生に質問する形式で進められた。参加した中学生は「夏休みの宿題や自由課題を大学生に教えてもらい、理解が進みました」と感想を話した。

また、関東圏の教員が「世界紳士録」(Man's Who's Who in the World 2011)に掲載された。同書は各国の政府首脳や国際的に活躍する学識経験者のほか、独創性の高い研究活動を行っ

ている理工系の学者も掲載されている。菅原教授が発表した自動車やロボットの姿勢制御やナビゲーションに関する研究が評価された。



▲ 石巻信用金庫本店に展示された模型

## 学生10人が製作 立体模型を展示

「復興共生プロジェクト」の一環として、益満環経営学部准教授、高橋智理工学部准教授を中心に、学生らが昨年7月から図書館で製作に取り組んできた。

大きさは縦1・8メートル、横2メートル。震災前に撮影された、市内門脇、南浜地区の空撮写真を基に、本



▲ 好評だった学習支援

## 仮設住宅の小中学生の自主学習を支援

木村特任教授と学生6人、8月21日から24日まで、南境地区など本学周辺の仮設住宅に住んでいる小中学生を対象に、大学の教室に招いて自主学習の支援を行った。

木村民特任教授と学生6人は、8月21日から24日まで、南境地区など本学周辺の仮設住宅に住んでいる小中学生を対象に、大学の教室に招いて自主学習の支援を行った。

木村特任教授が学習支援教室を開くことを提案。教室は小中学生がそれぞれの課題を持参し、分からないところを学生に質問する形式で進められた。参加した中学生は「夏休みの宿題や自由課題を大学生に教えてもらい、理解が進みました」と感想を話した。

また、関東圏の教員が「世界紳士録」(Man's Who's Who in the World 2011)に掲載された。同書は各国の政府首脳や国際的に活躍する学識経験者のほか、独創性の高い研究活動を行っ

ている理工系の学者も掲載されている。菅原教授が発表した自動車やロボットの姿勢制御やナビゲーションに関する研究が評価された。



▲ 驚きと不思議に興味津々の子どもたち

本学からは理工学部の工藤すばる教授、鳴海史高准教授、指方研二准教授の3研究室と大学開放センターが参加。大学で学んだ知識を分かりやすく解説し、楽しい実験を繰り返した。